鹿児島大学農学部農学科

（令和６年度開設）

学生確保の見通し等を記載した書類

目　　次

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 ・・・・・・・・・・ 3
（１）設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析 ・・・・・・・・・・ 3
（２）地域・社会的動向等の現状把握・分析 ・・・・・・・・・・ 3
（３）新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等 ・・・・・・・・・・ 3
（４）学生確保の見通し ・・・・・・・・・・ 5
A．学生確保の見通しの調査結果 ・・・・・・・・・・ 5
B．新設学部等の分野の動向 ・・・・・・・・・・ 6
C．中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等 ・・・・・・・・・・ 6
D．競合校の状況 ・・・・・・・・・・ 6
E．既設学部等の学生確保の状況 ・・・・・・・・・・ 7
（５）学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果 ・・・・・・・・・・ 8
２．人材需要の動向等社会の要請 ・・・・・・・・・・ 10
（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） ・・・・・・・・・・ 10
（２）社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ・・・・・・・・・・ 10

１．学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

鹿児島大学農学部は、昭和 24 年新制鹿児島大学として、設置以来、時代の要請に即して学科新設と統廃合を繰り返し、現在まで約 70 年間、国内外の農業界及び関連産業界に農林業を支える人材を供給してきた。特に、高度経済成長期以降、農村人口が減少する中でも国内有数の食糧基地といわれる西南暖地の農業の発展に大きく貢献してきた。しかし、現在の日本の農林業においては、担い手不足や耕作放棄地、林業事業地確保の困難性、土砂災害などの防災意識の向上、スマート農業などの新技術開発の必要性、環境・生活・文化の多様性への配慮の必要性など、解決すべき課題が山積していることから、地方国立大学農学部では、これらに対応し、今後も我が国、そして、西南暖地の農林業及び関連食品産業を持続的かつ高度に牽引していくことができる、柔軟で広い視野を持った人材の育成が急務と考えられる。

（２）地域・社会的動向等の現状把握・分析

日本の農林業においては、担い手不足や耕作放棄地、林業事業地確保の困難性、土砂災害などの防災意識の向上、スマート農業などの新技術開発の必要性、環境・生活・文化の多様性への配慮など、農薬使用量の削減など解決すべき課題が山積している。これらに対して農林水産省は「緑の食料システム戦略」「農業競争力強化プログラム」「産地生産基盤パワーアップ事業」「食品産業の地球温暖化・省エネルギー対策促進事業」「新たな食料・農業・農村基本計画」「スマート農業の加速化と農業のデジタルトランスフォーメーションの推進」「災害や家畜疾病等、気候変動といった農業の持続性を脅かすリスクへの対応強化」などの政策・計画を掲げ、今後のわが国の農業の変わるべき姿を提示している。これらはいずれも従来の「作物学、農業経済学、林学、農業工学、農芸化学」といったような学問的枠組みの中だけでは実施できない政策・計画であり、これらに対応する人材・リーダーを育てるには分野横断型かつ農林業の現場に直接対峙する教育が必須となる。西南暖地に位置する農業県であり、かつ森林率が 69％と高い鹿児島県は県の経済基盤の 5.5％を一次産業が占めており、都道府県別全国平均 1.2％よりもはるかに高い。そのため、地域社会はこれらの政策・計画との関わりが強く、地域社会からこれらの政策・計画に沿った実践的教育への要請は高い。

（３）新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

鹿児島大学農学部においては、これまで農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科及び水産学部と連携した国際食料資源学特別コースの３学科１特別コース体制で「食料・農業・農村基本法」及び「食料・農業・農村基本計画」に適った教育体制を実現してきた。しかしながら、本学農学部では、現状で以下のような問題を抱えている。

第１に、学生の主体性学修力の低下である。農、林、食という幅広い学問分野で形成される農学部では、多くの初年次生は「自分の将来像」が定まっていない。低年次では教養教育的な座学講義が多く、将来のキャリアをイメージできないまま進級した結果、高年次でも学修態度が受動的となっている。

第２に、広範な知識と学術専門性の不調和である。極めて幅の広い学問領域を持つ農学に対して、学科やコースなどの教育研究分野の細分化と専門偏重教育により、学生や教員の視野・思考

が狭窄的となっている。

第３に、実践的教育への対応の不足である。本学は南北 600km にわたる広大なフィールドを舞台として、南日本地域発展の牽引役として地方創生を支える教育サービスを提供するためには、学問領域を横断する学際的、総合的アプローチが必要であり、教員・学生・社会人・民間企業が協働しつつ実践的教育を通じて農学部が地域指導の中心的役割を果たす機能・体制を強化することが求められている。

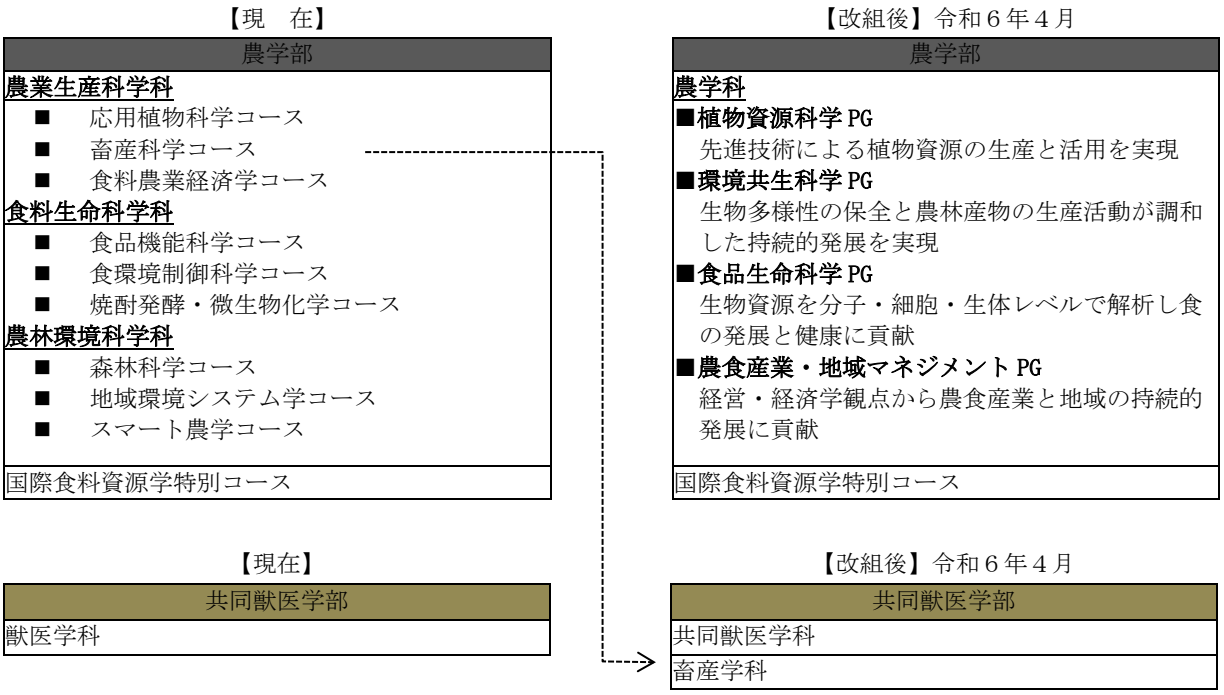
本学農学部において、学生は総合科学として広範な基礎科学に関する知識を獲得するとともに、農学が対応すべき課題の理解を通じて農学的視点を涵養する必要がある。日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同による農学分野の参照基準検討分科会の審議結果をとりまとめた「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準農学分野」では、農学における７つの基本分野（農芸化学、生産農学、畜産学・獣医学、水産学、森林学・林産学、農業経済学、農業工学）を挙げている。この７基本分野によって学修すべき内容は異なるが、俯瞰的な視野と広範な知識の獲得は農学の基礎を形成するために重要となる。それらによって獲得する能力は、それぞれの専門分野の立場から、食料や生活資材、生命、環境に関わる諸問題を解決するための知的創造活動を進めることができる力であり、広範な知識に裏打ちされた柔軟かつ論理的な思考を持って取り組む能力である。

そこで、現在の３学科 10 コース体制のうち、水産学部と連携した国際食料資源学特別コースは現状を維持しつつ、以下に示す１学科（農学科）４プログラム体制（植物資源科学プログラム、環境共生科学プログラム、食品生命科学プログラム、農食産業・地域マネジメントプログラム）へと再編する（図１）。動物系教育研究を推進して農学部と同時に組織改編する共同獣医学部（現・農業生産科学科畜産科学コースが共同獣医学部に畜産学科として合流）と連携しつつ、農学部は植物系・食品系の教育研究体制を先鋭化・重点化するための組織改革を行う。鹿児島大学の教員組織である学術研究院制度を活用することで、学生の学修に不利益が生じない万全の体制とし、先進デジタル技術の駆使と、現場・現実・現物と学術的原理・原則を高度に融合させる実践的農学教育体制を推進することにより、強いグローカルマインドとともに農学総合力と専門性を兼備し、我が国の持続可能な農林食産業の発展と地域課題解決に貢献し、主体性・積極性を醸成し、新時代を自ら切り拓くことができる人材を育成する。

なお、現在の教育コース体制を維持する予定の国際食料資源学特別コース（定員 12 名）を除いた３学科の定員は合計 193 人であるが、ここから共同獣医学部畜産学科に移行する定員 30 名を除いて、入学定員を 163 人とする（国際食料資源学特別コースを入れた場合は 175 名）。1 年次はキャリアデザインなど学生自身の主体性を養う教育に重点を置き、２年次以降は 163 人を植物資源科学プログラム（目安定員 47 人）、環境共生科学プログラム（目安定員 47 人）、食品生命科学プログラム（目安定員 42 人）、農食産業・地域マネジメントプログラム（目安定員 27 人）の４プログラムに配属して専門教育を行う。専門教育は４プログラム統一のシラバスを使用するが、１年次に学生が自ら作成したキャリアデザインに合わせて、プログラム横断型の授業選択を可能とする。

学生納付金の額は、鹿児島大学の他の学部（法文学部、教育学部、医学部、歯学部、工学部、共同獣医学部、水産学部）と同様に、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

図１　令和６年度農学部・共同獣医学部改組（案）両学部改組見取り図



（４）学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

改組による新しい農学部の姿が、高校生又は高校教諭（進路指導部）の要望に沿っていることを確認するため、過去５年間に農学部への入学者が多い鹿児島県内の普通科高校及び農業高校 14 校の高校生及び高校教諭を対象に Google フォームを利用したアンケートを令和４年９月１日～９月 30 日に実施し、高校生 779 人、高校教諭 23 人から回答が得られた（資料１）。

回答した高校生の学年別内訳は、１年生 237 人、２年生 416 人、３年生 126 人であった。将来の進路として鹿児島大学農学部に「ある程度興味がある」「とても興味がある」と回答した高校生の合計は、30.7%となり、全体の３分の１を占めた。鹿児島大学農学部に入学する場合に高校生が最も重視する学びとして、「将来の仕事に関連する勉強」、「農学の実用的な勉強」「農学の幅広い教育と専門性を兼備した勉強」、「実践的な教育やデジタル化に対応した勉強」などが挙げられた。この傾向は、高校生全体でも、先に挙げた鹿児島大学農学部に興味がある 30.7%の高校生に絞っても傾向は同様であった。「国際化・語学に関する勉強」への期待はやや低く、地域思考の高校生が多い傾向と考えられた。一方、鹿児島大学農学部で興味のある学問分野(複数回答)として 30%又はそれ以上の高校生が選択して、上位に挙げられたものは、「環境保全・生物多様性」、「質の高い農林産物の生産」、「新商品の開発」、「食品の安全性」、「食品加工」などの分野であったが、その他の分野についてもそれぞれ 20%程度の高校生が興味を示しており、高校生の関心が幅広く分散していることも示された。この傾向についても鹿児島大学農学部に興味がある高校生に絞っても同様であった。さらに鹿児島大学農学部に力を入れてほしい教育について高校教員に尋ねた結果、「地方創生・地域活性化」、「環境保全・生物多様性」、「農業・食品産業のマネジメント」な

どの項目が多数を占めた。これは「地方創生・地域活性化」と「農業・食品産業のマネジメント」は高校教員として重要性を認識しているものの、高校ではカリキュラム上、十分に扱えないため、大学で力を入れてほしいというメッセージであると考えられた。これらの結果から令和６年度改組において、「農業・食品産業のマネジメント」や「環境保全・生物多様性」を専門とするプログラムを設置し、これに加えて「キャリア教育の充実」、「スマート農業・デジタル化への対応」及び「幅広い分野選択が可能」という点を重視するカリキュラムの方向性は高校生及び高校教員の要望と整合性が取れており、改組後も定員の充足は可能と考えられる。

B. 新設学部等の分野の動向

鹿児島県と同じく宮崎県、高知県も西南暖地にあり地元国立大学に農学部がある。また、同じ九州の中には佐賀県の国立大学にも同様に地域人材輩出を主目的とした農学部がある。このため、これらの県の国立大学農学部等は鹿児島大学農学部と高校生の受験ニーズは類似性があると考えられる。ただし、これまでの鹿児島大学農学部へは四国地域からの受験者が極めて少ないことから、植物生産・環境共生・食品化学・職産業マネジメントに特化した新設の農学部と受験ニーズの類似性が高いのは宮崎大学農学部及び佐賀大学農学部であると考えられる。表１に示すように、令和４年度の宮崎大学農学部植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科及び応用生物科学科の入試においては、３学科合計の募集人員 161 人に対して志願者 665 人、合格者 198 人であり、佐賀大学農学部は募集人員 145 人に対して志願者 595 人、合格者 167 人で、いずれの農学部も定員充足率は 100％以上であり、九州地域での農学系教育に対する十分な受験ニーズがあることがうかがえる。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

文部科学省が Web サイトで公開している「18 歳人口及び高等教育機関への入学者・進学率等の推移」（※）によると、本改組で第１期の入学を想定している 2024 年から、第８期生が入学する 2031 年までの 18 歳人口は 100 万人を超えることが想定されている。また、文部科学省「学校基本調査」によると 2032 年度の 18 歳人口の減少率は全国平均 88.9％であるが、九州・沖縄地域の減少率は 94.4％にとどまると予測されている。18 歳人口の減少による受験倍率の低下は避けられないが、項目 B 及び D で分析しているように主に九州地区で農学系教育には充分な受験ニーズがあるため、キャリアパスを意識した実践的教育と分野横断的かつ魅力的なカリキュラムを整備し、将来的に有望な人材輩出の実績を積むことで、長期間にわたって学生を確保することは可能である。

※ 文部科学省「18 歳人口及び高等教育機関への入学者・進学率等の推移」
https://www.mext.go.jp/content/20201209-mxt_daigakuc02-100014554_2.pdf

D. 競合校の状況

「B 新設学部等の分野の動向」で前述したとおり、西南暖地又は九州という立地と地域特化した農学部を目指している競合校としては、宮崎大学農学部、佐賀大学農学部、そして、高知大学農林水産化学部が挙げられる。表１に示すように、各校の募集人員は 135～161 人であり、新設

の鹿児島大学農学部の 163 人とほぼ同等である。受験倍率(受験者数/合格者数)は２～３倍の範囲であり、そしていずれも定員充足率が 100%を満たしていることから、地域全体を見ても十分な受験ニーズがあり、入学者を分け合っている状態といえる。

表１．競合校における令和４年度の入学志願状況及び入学実績

競合校・分野	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
佐賀大学農学部（総括）	145	595	393	167	146	101
宮崎大学農学部（総括）（畜産・水産・獣医分野を除く）	161	665	408	198	171	106
高知大学農林海洋科学部（総括）（水産分野を除く）	135	569	338	139	139	103

E. 既設学部等の学生確保の状況

平成 30 年から令和４年までの５か年間の鹿児島大学農学部の入試状況を資料２にまとめた。この間３学科１特別コースの定員には変更がない。一方で学部全体の志願倍率は年によって 2.2～3.1 倍の間で変動しており、決して高くない状況といえる。志願倍率が高くない要因としては鹿児島大学が前述の競合校に比べ、一般入試前期の受験科目が３科目と多かったことなどが要因と推定される。この点は令和５年度入試から変更され、科目数は２科目となる。他方、年による変動の要因となるのは学科ごとの志願倍率の年変動である。今回改組対象から外れている国際食料資源学特別コースを除いた３学科では、農業生産科学科が 2.5～3.3 倍、食料生命科学科が 2.3～3.0 倍、農林環境科学科が 1.9～3.5 倍と学科別にするとさらにその年変動幅が大きくなる。学科ごとの教育内容と受験ニーズの齟齬が年毎でこれほど大きいとは考えづらいことから、志願倍率の年変動は偶然によるところが大きいと思われる。このことから、このような志願倍率の変動を抑えて、安定した志願倍率での学生確保を目指す意味では学科ごとの学生募集ではなく学部全体一括で募集することが最も効果的な方法と考えられる（表２）。また、１学科とすることで、自分の将来像が描けていない受験生が受験時に分野を絞る必要がなくなり、農業・生物学・化学などに関連するより幅広い分野を志望する受験生を確保しやすくなると見込まれる。入学者選抜の形態も従来の４種類（一般前期、一般後期、自己推薦型、学校推薦型選抜Ⅰ専門高校）に学校推薦型選抜Ⅰ（普通科高校）及び学校推薦型選抜 II を加えることで、より多様な人材の受験機会の確保を狙った（表２）。これらは入口である受験者の近年の志望状況、出口となる卒業者の進路状況（就職先の社会的要請、大学院への進学状況)、教育効果（卒業生アンケートからの要望、教育プログラム等の規模の適正化）と再編後の新学科の教育内容とを総合的に勘案したものである。

志願倍率での年変動はあるものの学生確保はこの５年間順調であり、学部全体では 103～113%の入学者数が確保されている。また、国際食料資源学特別コースを除いた３学科では、過去５年間に学生確保ができなかった年もなく、今後も安定した学生確保が可能と考えられる。

表２．各種選抜（入学試験）の入学定員設定の変更

現行（令和４年度）

		選抜方法							
学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜	学校推薦型選抜			国際バカロレア選抜	私費外国人学部留学生選抜
	193	前期日程	後期日程	自己推薦型選抜	選抜Ⅰ（専門高校）	選抜Ⅰ（普通科高校）	選抜Ⅱ		
農業生産科学	71	52	6	5	8			若干人	若干人
食料生命科学	66	52	6	5	3			若干人	若干人
農林環境科学	56	41	6	5	4			若干人	若干人

改組後（令和６年度）

		選抜方法							
学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜	学校推薦型選抜			国際バカロレア選抜	私費外国人学部留学生選抜
	163	前期日程	後期日程	自己推薦型選抜	選抜Ⅰ（専門高校）	選抜Ⅰ（普通科高校）	選抜Ⅱ		
農学科	163	82	20	14	12	5	30	若干人	若干人

（５）学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

①　受験案内の作成と高校訪問、説明会の開催

令和５年６月には、改組後の新しい農学部の入試制度や教育体制を紹介する「受験生のための大学案内 2024」（受験案内）の作成を予定している。受験案内が完成次第、対象とする高校の進路指導担当者に今回の改組の趣旨を説明したうえで、高校生への受験案内の配布を依頼する予定である。また入試説明の機会として、例年７月に九州圏内数カ所で九州地区国立大学合同説明会が開催され農学部も必ず出展しており、令和５年度以降も継続する。さらに、例年県内外の高校からの要請に応じて高校訪問をして行う（高校側がオンライン説明を希望した場合はオンラインで行う）大学・農学部説明会において、受験案内の配布と併せて、大学教員による生徒・教諭向け説明（会）を行う。訪問先高校は要請に応じて制限なく全国のあらゆる高校を訪問する。鹿児島大学農学部の学部説明会のための高校訪問及び高校からの大学訪問件数は令和４年度実績で鹿児島県、福岡県、宮崎県、熊本県、静岡県、広島県、大分県、兵庫県、長崎県、愛媛県、京都府の 12 府県で 16 件であり、令和５年度以降も同様に要請に応じてできるだけ多くの高校を訪問する予定である。これらに加えて例年７月に「進路指導担当教諭を対象とした進学説明会」も行っており、令和４年実績ではオンライン参加を含めて 34 校が参加しているが、これについても令和５年７月は改組後の学部の姿を紹介できるように準備する。

② オープンキャンパス

例年、８月にオープンキャンパスを開催しており、多くの受験生が参加している。（令和２～３年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため対面での実施を中止）。令和４年度夏季はコロナ感染対策実施下で対面参加人数を制限して、オンライン（８月６日)と対面（８月７日）で開催し、高校生 172 名（対面参加　114 人、オンライン参加 58 人）及び保護者等 29 人で合計 201 人の参加者があった。対面参加した高校生へのアンケート結果から参加者 90%が企画に満足しており、その効果・反応は十分に認められた（資料３）。

令和４年度は秋季（11 月）にも小規模ながらオープンキャンパスを行い、オンライン参加高校生が約 10 名、対面参加高校生が 28 名であった。引率の保護者や教諭を含めると 49 名の参加であった。対面参加高校生 28 名に対する参加者アンケートの満足度は 100%であった。また、同アンケートで入学した場合に関心のある分野を答えてもらったところ、複数回答する生徒が多く、高校生個々人の関心が多岐にわたっていることが示唆された。特に関心が高かった分野は「食の安全安心」「食品の機能性・栄養・健康」「スマート農業」「地域活性化」「生物多様性」「食品ロス」「焼酎・発酵微生物」「動物行動学」となり、ここでも改組の趣旨と高校生の関心が一致することが確認された。

令和５年度も夏季・秋季に同様の日程で開催予定であり、受験生、保護者及び高校教諭等に改組後の農学部の入試制度や教育体制を直接伝える機会となり、大きな効果が期待できる。

③ 出前講義、出張授業及び高等学校との連携事業を通じた広報

鹿児島大学農学部では、高校側の依頼に応じて実施する出前講義と、各学部で経費を負担して教員を派遣する出張授業及び学部説明及び高校の大学訪問受け入れを実施している。令和４年度は、出前講義 23 件と高校での農学部紹介・出張授業 12 件及び高校生・中学生の大学訪問受け入れ４件を実施した。令和４年７～８月には高大連携授業として、「鹿児島大学農学部体験授業」を行い、38 人の高校生が大学生と共に授業を受け、単位を取得する体験を得た。11 月には「高大連携による農業の魅力発信プロジェクト」として、鹿児島県内の 10 人の高校生が農学部を訪問し、大学生の授業や実習に参加した。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業への９件の支援を実施している。令和５年度は、これらの講義や支援事業の際に、改組後の農学部の入試制度や教育体制を紹介し、高校生に対する広報の機会とする。

④ Web サイトを活用した広報

鹿児島大学農学部は令和４年８月にホームページのプラットフォームを変更し、全面的にリニューアルして、高校生が手軽に情報にアクセスできるように、PC だけでなく、スマートフォン等の携帯端末でもコンテンツが美しく効率的に閲覧できるようなデザイン・レイアウトとした。また、高大連携の体験授業の特設ページも追加した。さらに、全研究室の研究紹介 YouTube チャンネルを完備し、同時にホームページ上で受講できるミニ講義も８件登録し、高校生が無料でいつでも鹿児島大学農学部の研究を動画で閲覧したり、ミニ講義をオンライン上で体験できるようにした。令和５年度には、そこに特設ページを追加して、改組の趣旨の説明と改組後の入試制度

や教育体制を紹介する予定である。また、令和６年度には改組後の新教育体制に合わせたデザインに更新する予定である。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

鹿児島大学農学部では、１学科（農学科）４プログラム体制（植物資源科学プログラム、環境共生科学プログラム、食品生命科学プログラム、農食産業・地域マネジメントプログラム）へと再編する。動物系教育研究を推進して農学部と同時に組織改編する共同獣医学部と連携しつつ、農学部は植物系・食品系の教育研究体制を先鋭化・重点化するための組織改革を行う。先進デジタル技術の駆使と、現場・現実・現物と学術的原理・原則を高度に融合させる実践的農学教育体制を推進することにより、強いグローカルマインドとともに農学総合力と専門性を兼備し、我が国の持続可能な農林食産業の発展と地域課題解決に貢献し、主体性・積極性を醸成し、新時代を自ら切り拓くことができる人材を育成する。

（２）社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

直近５年間（平成 29～令和３年度）の農学部卒業生（毎年約 200 名）の主な進路は、国・地方公務員が約 20%、製造・販売業が約 25%、サービス業が約 10%、大学院等への進学者が約 25%である（表３）。

公務員の多くは、農学職・農業土木職・林学職であり、民間企業の製造・販売業は農林業・食品・木材関係の製造・販売、サービス業も地域金融・環境コンサルタントなどが多くを占める。このように農学部で地域の農林業・食品産業と地域経済の活性化のための人材をこれまで輩出してきた。

こうした農学部の進路実績が、社会的、地域的な人材への需要の動向を踏まえたものであることを示したのが表４の産業分類別の求人（農学部学生係を通じた正規ルートの求人）の推移である。

毎年の農学部への求人数は概ね 500～600 件で推移しているが（令和４年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少）、そのうち最も多いのは公務員であり、年平均で 122 件の求人があった。その中で、農学部卒業生の公務員の進路先として最も多い鹿児島県職員の試験区分別の採用予定数の推移を示したのが表５である。近年は農業職を中心に採用予定数が大幅に増えつつあり、地方公務員への人材需要は高まる傾向が見られる。

一方、民間企業では食品製造業を中心とした製造業が最も多く、年平均 76 件である（前掲表４）。製造業は農林産物の原料の調達から、製造・管理、営業・販売までの幅広い業種・職種の求人がある。

卸売業・小売業が年平均 55 件であるが、これらも農林産物・食品を中心とした仕入から保管・輸送・販売までの業種が中心である。

また、木材を扱う建設業への求人も 33 人と安定している。サービス業の求人も毎年 30～40 件で推移するが、これらは土地改良関連や営農サービス業、環境関係の業種（環境測定・コンサル

タント）などが多くを占める。

複合サービス業は、主に農業協同組合や森林組合であり、毎年 30 件前後の求人がある。

過去５年間の求人件数を卒業生数（進学者を除く）で除した求人倍率は 3.8 倍であり、農学部卒業生への社会の需要は高い水準で推移する。

このように、これまでも農学部への求人に対し多くの人材を送り出してきたが、今後も鹿児島県内及び九州内を中心に、同様の求人が続くものと考えられる。今回の改組で育成する、主体性・積極性を醸成した農学総合力と専門性を兼備した実践的な人材は、こうした地域的な人材需要に対応するものである。

表３．農学部の過去５年間の進路状況

		H29 年	H30 年	R 元年	R２年	R３年	５年間の平均
実数（人）	国家公務員	5	4	12	4	7	6
	地方公務員	40	35	33	33	38	36
	製造・販売業	57	52	55	43	43	50
	サービス業	23	16	19	26	16	20
	建設業	4	3	2	0	3	2
	農・林産業	0	8	7	6	5	5
	その他	25	36	36	31	35	33
	進学(大学院等)	50	53	42	55	55	51
	合計	204	207	206	198	202	203
割合（%）	国家公務員	2.5	1.9	5.8	2.0	3.5	3.1
	地方公務員	19.6	16.9	16.0	16.7	18.8	17.6
	製造・販売業	27.9	25.1	26.7	21.7	21.3	24.6
	サービス業	11.3	7.7	9.2	13.1	7.9	9.8
	建設業	2.0	1.4	1.0	0.0	1.5	1.2
	農・林産業	0.0	3.9	3.4	3.0	2.5	2.6
	その他	12.3	17.4	17.5	15.7	17.3	16.0
	進学(大学院等)	24.5	25.6	20.4	27.8	27.2	25.1
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表４．　農学部への産業分類別求人数の推移

産業分類	R元年	R２年	R３年	R４年	R５年	５年間の平均
公務	146	140	129	84	112	122
製造業	67	86	77	75	73	76
卸売・小売	74	62	62	41	35	55
医療福祉	53	55	53	41	49	50
サービス	38	40	28	40	32	36
建設業	33	30	35	26	40	33
情報通信業	28	35	28	33	38	32
複合サービス事業	22	33	33	18	28	27
金融・保険	22	20	24	13	20	20
農業・林業	23	12	18	14	6	15
上記以外	116	136	136	105	109	120
計	622	649	623	490	542	585

表５．鹿児島県職員の試験区分別採用予定数

	R元年	R２年	R３年	R４年
農業職	5	16	22	19
農業土木職	6	6	3	6
林業職	2	2	5	4

今回の学部改組に関する関係者の意向を窺うことを目的に、JA鹿児島中央会、工業倶楽部に支援・協力を求める文書を送付し、賛同が得られた（資料４）。

鹿児島大学農学部農学科
（令和６年度開設）
学生確保の見通し等を記載した書類
【資料】

目　　次

資料１．農学部改組に向けた高校生・高校教諭へのアンケート結果　・・・・・・・・・・・　2
資料２．農学部への過去５年間の入学者数、志願者等の実績（学科毎）　・・・・・・・・・・・　8
資料３．令和４年度オープンキャンパスの実施状況及び
参加者アンケート　・・・・・・・・・・・　9
資料４．農学部改組への協力要請書　・・・・・・・・・・・　22

資料１　農学部改組に向けた高校生・高校教諭へのアンケート結果

資料１ その１

令和４年 ８月３１日

高等学校長　　殿

鹿児島大学農学部長
橋本　文雄

農学部改組に向けた高校生アンケートについて（依頼）

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素より本学部の教育研究活動へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今日、わが国では、農業・農村人口の著しい高齢化・減少、持続的な農業生産と安全な食料供給への対応、農業のデジタル化 などの大きな課題と変革の時期に直面しています。
こうした社会情勢や農業事情の変化を受けて、現在、鹿児島大学農学部では教育課程の改革（農学部改組）の検討を行っています。

改組の大まかな方針として、以下の３つの柱を予定しています。

１．入学時からのキャリア教育の導入による主体性と積極性の醸成に資する教育体制の整備

２．学科の再編と入試（募集）の変更

３．実践的教育と DX 教育の拡充

つきましては、改組に向けた参考資料とさせていただきたく、本学部への入学実績のある高等学校の生徒の皆様向けにアンケート調査を実施することとなりました。

ご多用中誠に恐縮ですが、御校の生徒の皆様に、別紙記載の QR コード又は URL をお知らせいただき、アンケートの回答にご協力くださいますよう、ご案内をよろしくお願い申し上げます。

敬具

※アンケート回答期限：令和４年９月２０日

※アンケートの回答データは全て統計処理し、個人を特定することは一切なく、目的以外に使用することはありません。

★質問内容★

１．学年を選択してください。
①１年生　②２年生　③３年生

２．性別を選択してください
①男　②女　③回答しない

３．もし、あなたが鹿児島大学農学部に入学するとするなら、どのようなことを重視しますか？
以下の各設問について、１～５の当てはまる番号を選択してください。

(1) 農学全般の幅広い勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

(2) 高度で専門的な農学の勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

(3) 農学に関する実用的な勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

(4) 将来の仕事に関連する勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

(5) 国際化や語学に関連する勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

(6) デジタル化社会に対応した勉強ができる
1.全く重視しない　2.あまり重視しない　3.ふつう　4.重視する　5.とても重視する

４．鹿児島大学農学部の中で、あなたの興味がある分野を下記の中から３つまで選択してください。
① 質の高い農林産物の生産
② 食料の増産
③ 環境保全・生物多様性
④ 地方創生・地域活性化
⑤ 食品加工
⑥ 食品の成分分析
⑦ 食品の安全性
⑧ 新商品の開発
⑨ 効率的な農林業生産
⑩ 農業・食品産業のマネジメント

５．将来の進路として、鹿児島大学農学部にどの程度興味がありますか？
①～④の中から１つ選んでください。
① 全く興味がない。
② あまり興味がない。
③ ある程度興味がある。
④ とても興味がある。

６．その他、鹿児島大学農学部について、ご意見、ご要望などありましたら、ご自由にご記入ください。

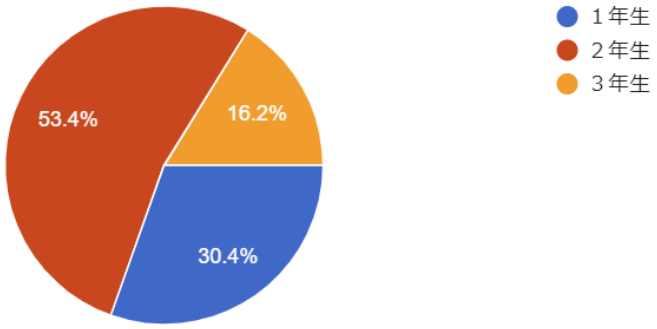
（　　）

高校生アンケート

- 回答者数：779 名
- 回答日：2022 年 9 月 1 日～30 日
- 配布・回答方法：過去 5 年間に鹿児島大学農学部への入学者の多い鹿児島県内 12 高校の進路指導教諭に依頼し、高校生が web 上で回答。

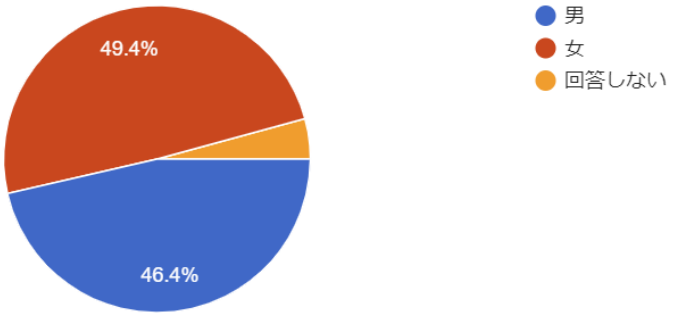
1．学年を選択してください。

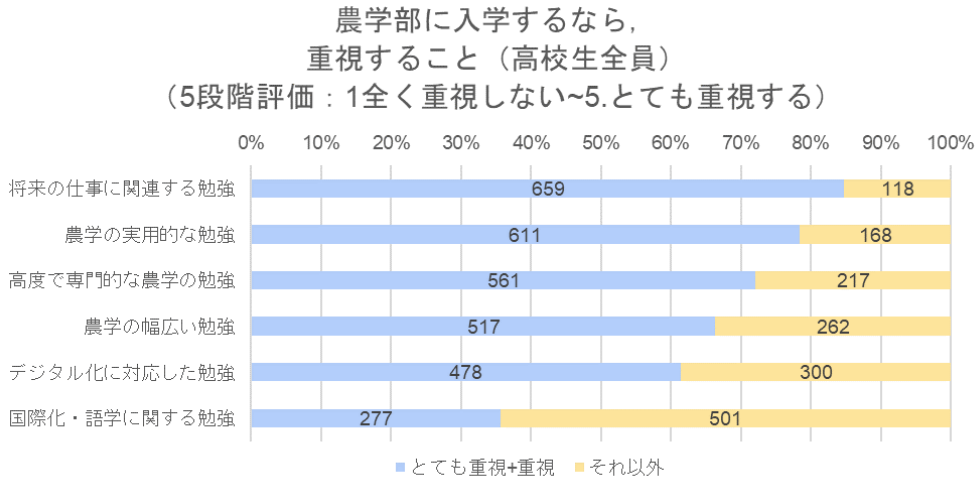
779 件の回答



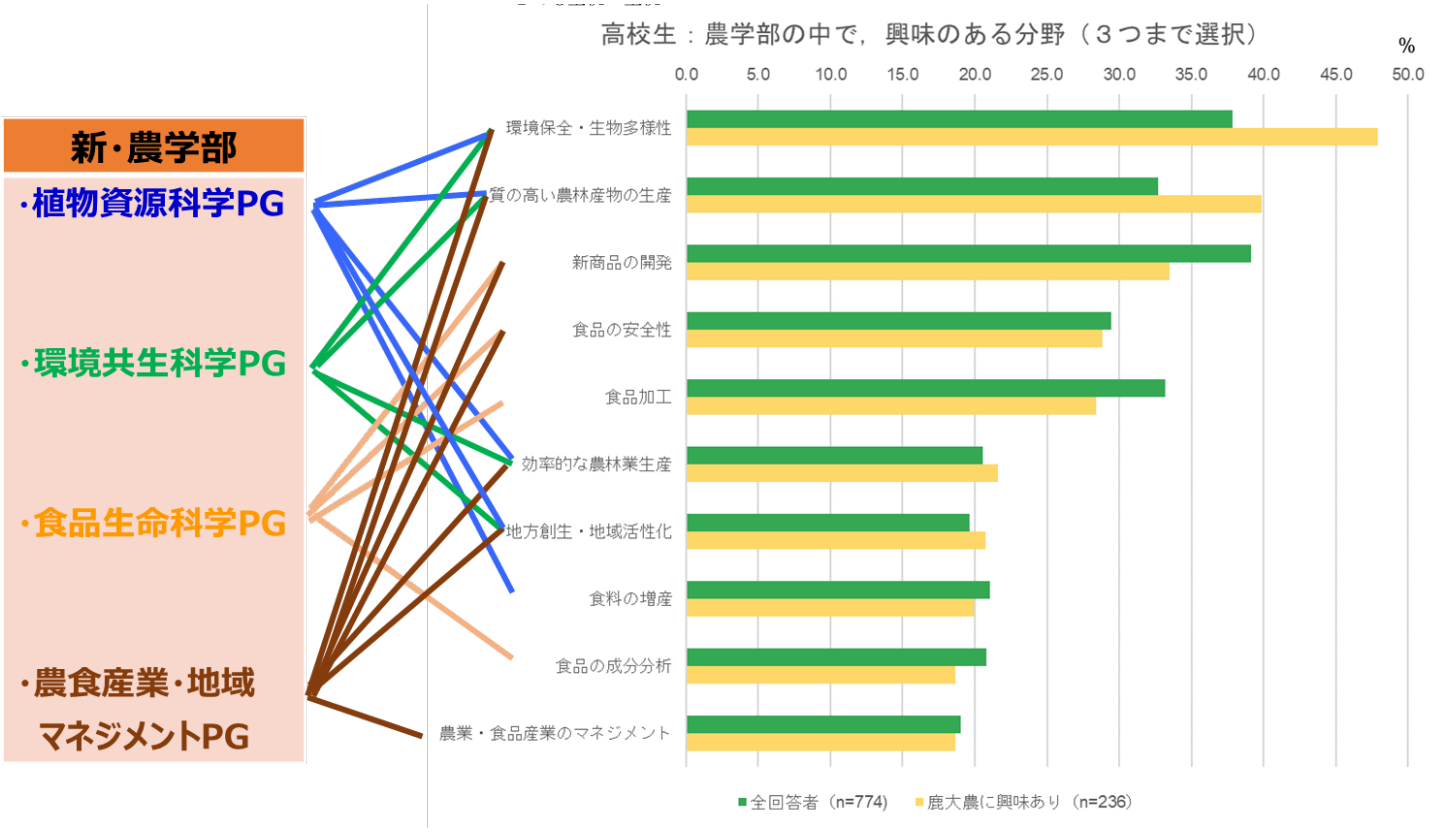
2．性別を選択してください

778 件の回答





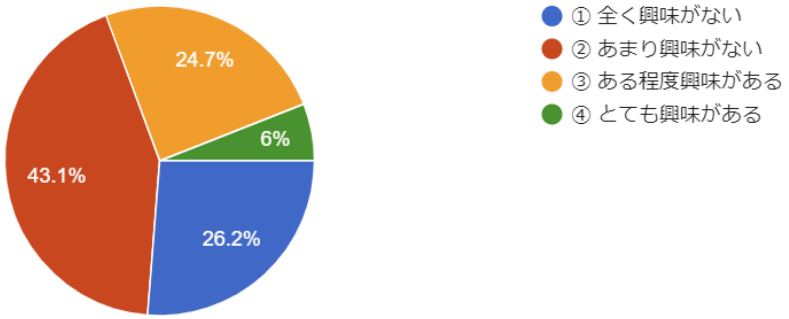
・キャリア教育
・農学総合力と専門性を兼備した教育
・実践的教育・DX 教育
などへのニーズが高い



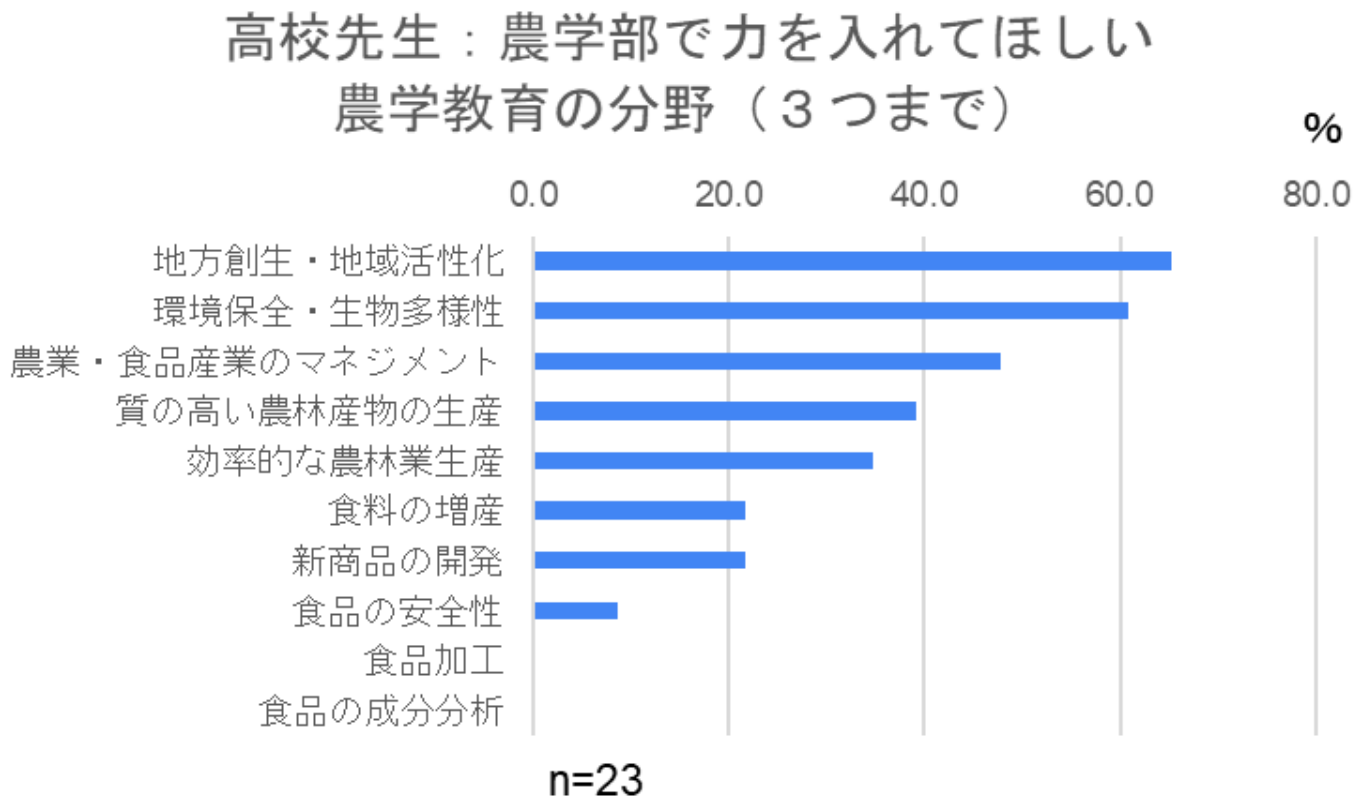
- 「環境保全・生物多様性」、「質の高い農林産物の生産」、「新商品の開発」、「食品の安全性」、「食品加工」への興味が高いが、それ以外の分野も 2 割程度の高校生が興味を持っている。
- 鹿大農学部に興味のある高校生は、「環境保全・生物多様性」、「質の高い農林産物の生産」への関心が「全回答者」より高い。
- いずれのプログラムにおいても、高校生の興味の高い分野への対応が可能。

５．将来の進路として、鹿児島大学農学部にどの程度興味がありますか？①～④の中から1つ選んでください。

770 件の回答



【参考】　高校教諭へのアンケート



- 高校の先生は、「地方創生・地域活性化」「環境保全・生物多様性」「農業・食品産業のマネジメント」に力を入れてほしいと回答。
- 特に「地方創生・地域活性化」と「農業・食品産業のマネジメント」は重要性を認識しているものの、高校での指導はカリキュラム上、十分に扱えないため、大学で力を入れてほしいというメッセージ。

資料２．農学部への過去５年間の入学者数、志願者数等の実績（学科毎）

学科		平成 30 年度	平成 31 年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
農業生産科学科	入学定員	71	71	71	71	71
	志願者数	234	186	188	180	224
	志願倍率	3.3	2.6	2.6	2.5	3.2
	入学者数	73	77	77	77	77
	充足率	102.82%	108.45%	108.45%	108.45%	108.45%
食料生命科学科	入学定員	66	66	66	66	66
	志願者数	195	150	178	162	170
	志願倍率	3.0	2.3	2.7	2.5	2.6
	入学者数	68	66	69	68	70
	充足率	103.03%	100.00%	104.55%	103.03%	106.06%
農林環境科学科	入学定員	56	56	56	56	56
	志願者数	166	197	188	104	193
	志願倍率	3.0	3.5	3.4	1.9	3.4
	入学者数	58	57	62	57	58
	充足率	103.57%	101.79%	110.71%	101.79%	103.57%
国際食料資源科学（農サブ）	入学定員	12	12	12	12	12
	志願者数	17	36	40	14	41
	志願倍率	1.4	3.0	3.3	1.2	3.4
	入学者数	12	14	15	10	15
	充足率	100.00%	116.67%	125.00%	83.33%	125.00%
合計	入学定員	205	205	205	205	205
	志願者数	612	569	594	460	628
	志願倍率	3.0	2.8	2.9	2.2	3.1
	入学者数	211	214	233	212	220
	充足率	102.93%	104.39%	113.66%	103.41%	107.32%

資料３．令和４年度　夏季オープンキャンパス実施状況（農学部）

資料３　その１

【参加者数】

高校生					その他（既卒者、教諭、保護者等）				区分不明者	合計
学年	県内者	県外者	不明	計	県内者	県外者	不明	計		
1年	6(3)	10(5)	0	16	9	20(2)	0	29	0	201
2年	20(5)	40(18)	0	60						
3年	47(11)	49(16)	0	96						
合計	73	99	0	172						

表中の( )内の数は内数でオンライン参加者数

【対面参加者内訳】

（企画・コース名）	高校生				その他（既卒者，教諭，保護者等）				区分不明者	合計
	県内者	県外者	不明	計	県内者	県外者	不明	計		
Aコース 森林・山地観察コース	5	4	0	9 人	0	0	0	0 人	0	9 人
Aコース 土と水の実験体験コース	4	5	0	9 人	0	0	0	0 人	0	9 人
Aコース 食品機能科学コース	3	2	0	5 人	0	0	0	0 人	0	5 人
Aコース 焼酎発酵・微生物科学コース	2	3	0	5 人	0	0	0	0 人	0	5 人
Aコース 畜産科学コース	4	8	0	12 人	0	0	0	0 人	0	12 人
Aコース 応用植物科学コース	8	7	0	15 人	0	0	0	0 人	0	15 人
Aコース 食環境制御科学コース	1	4	0	5 人	0	0	0	0 人	0	5 人
Bコース 研究室めぐり　農業生産科学科	8	11	0	19 人	1	0	0	1 人	0	20 人
Bコース 研究室めぐり　食料生命科学科	7	11	0	18 人	0	0	0	0 人	0	18 人
Bコース 研究室めぐり　農林環境科学科	12	5	0	17 人	0	0	0	0 人	0	17 人

2022年　オープンキャンパスに係る意見等

農　　学部
（学部説

（参加者からの意見）…主な意見を抜粋してご記入ください。

（学部説明会・全体の感想）
・興味を持つ分野ができた（国際食料資源学特別コース）のは収穫でした。
・具体的に何をする学部・学科かよく分かった。
・自分が農学部に行くのも良いと思えた良い体験だった。
・農業に関する関心がさらに高くなりました。
・学科の違いや特徴が良く分かって、とても有意義な時間になった。
・農学部は農業だけでなく広い範囲が対象になっていると知って、とても楽しそうだと感じました。

（キャンパスライフセミナー・在学生による個別相談コーナー）
・在学生の声を聞けたことが嬉しかったです。
・現役生の方々のお話を聞くことができ、自分の理解不足であった範囲の内容を聞くことができてとても参考になりました。
・在学生によるキャンパスライフセミナーが非常に分かりやすく、大学生活について分からないことが多かったがリアルな生活を知ることができて良かった。個別相談でも丁寧に答えてくださって参加して良かった。
・在学生に質問することができて良かった。
・自分が調べていたこと以外の色々なことを聞けて良かったです。農業高校卒の先輩から入試の話を聞けて少し安心しました。
・キャンパスライフセミナーもとても進路の参考となって聞けて良かった。

（体験入学コース）
・自分の興味、関心のあることについての研究があるのか不安であったところがあったのですが、実際に見て自分たちの力で様々な体験をすることができる環境があり、やってみたい研究もあったので、とても意味のある時間になりました。

・実際に実験などをして何をするかが具体的に分かって良かった。

・桜島に行って、説明を聞くことができて良かったです。

・土の中の世界について実験をし、初めて聞くような用語や実験道具があっておいつけないところがあったけど、実際に結果を見たりできて、とてもおもしろいと感じました。この大学で勉強してみたいなと思いました。

・デンプンの変化をみることができて、興味深く感じました。

・今回は第一希望の体験コースではなかったが、味やおいしさの比較がとても楽しく、自分はこの分野にも興味を持っているんだと気付くことができた。

・焼酎の製作という珍しいことを経験できて良かった。

・修士の方々や教授の説明がとても分かりやすく、焼酎に興味を持った。20歳になったら今回の体験を思い出して味わいたいと思う。

・「食肉のおいしさの正体」といコースに参加して、味覚について学び、実際に体験できてとても楽しかったです。
体験型ですごく楽しかった。

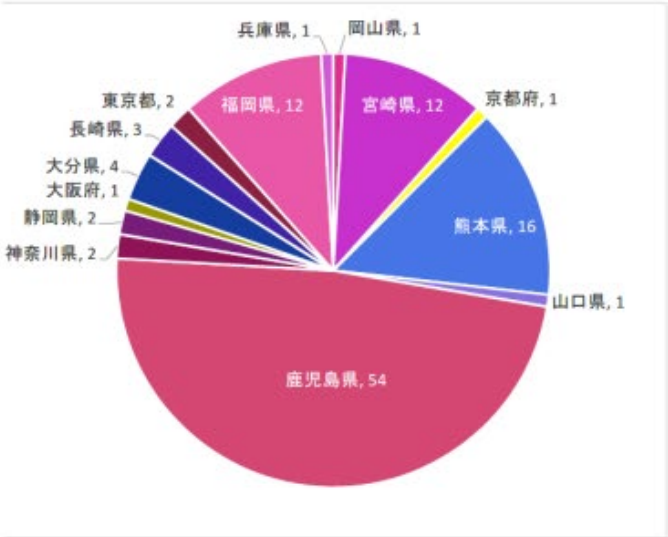
・ブランド豚と輸入豚を食べ比べる経験がなかったので楽しかったです。実際に比べてみると大きな違いがあって、ブランド豚はすごいと思いました。「おいしい」と感じるメカニズムも知れて、鹿児島大学に入ってみたいと思いました。

（研究室めぐり）
・実際に附属農場をまわってみて、多くの植物があってとても興味がわいた。
・いろいろな施設を実際に見ることができとても興味がわきました。
・農林環境科学科に特に興味があり、資料などでは分からないことを知ることができ良かったです。実際に見たことのなかった自動撮影カメラやドローンも見ることができ、農林環境科学科にさらに興味がわきました。
・高校で養豚について勉強していて、課題研究が放牧養豚を行っています。家畜管理学の教授からお話を聞いて自分が今高校でやっていることと関連があり、とても興味深かったです。
・ヤギなどの生態系をいかすことで、農薬を使用せずに米などを生産している点などに興味が湧きました。
・いろいろな研究室を見ることができ、より農学部に興味を持ちました。また、研究室によってのイメージも大きく変わり、もっといろんなことを知りたいなと思いました。

（学部からの意見）…主な意見を抜粋してご記入ください。
OCANsの申し込みシステムについて、システムトップページに「模擬講義・実習等の体験型プログラム（企画）は受験生優先のため、保護者等の申込みはご遠慮ください。」という注意書きがあるが、保護者の申込みが20名ほどあったため連絡をとりキャンセルのお願いを行った。注意書きが表記されていることの説明も行うが数名の保護者から、保護者でも申込みができてしまうシステムがおかしいなどの苦情があり、1件1件の対応に苦慮した。
オープンキャンパスを対面で実施した直近の2019年度の申込み開始前に、入試課へ学部ごとに申込み対象者を制限できないか相談したところ、学部ごとの設定はできないとのことで注意書きを表記するとの対応を行っていただいたが、今年度もこの問題点を解消できなかったため、システムで何らかの対策ができないか検討いただきたい。

2022年度
農学部オープンキャンパスアンケート

1. どちらから来られましたか。

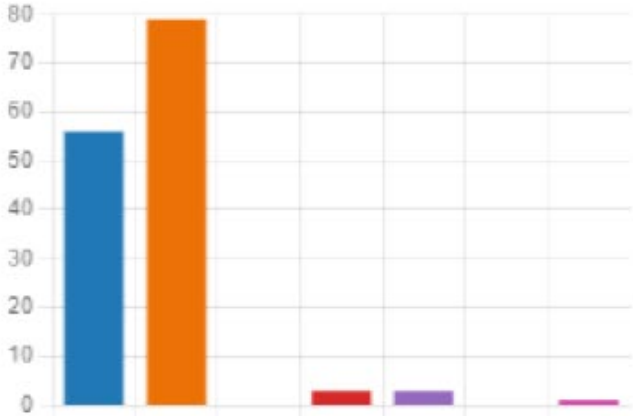


2. 学年（または既卒）をご記入ください。

1年次	7
2年次	36
3年次	64
その他・既卒	1
未記入	4

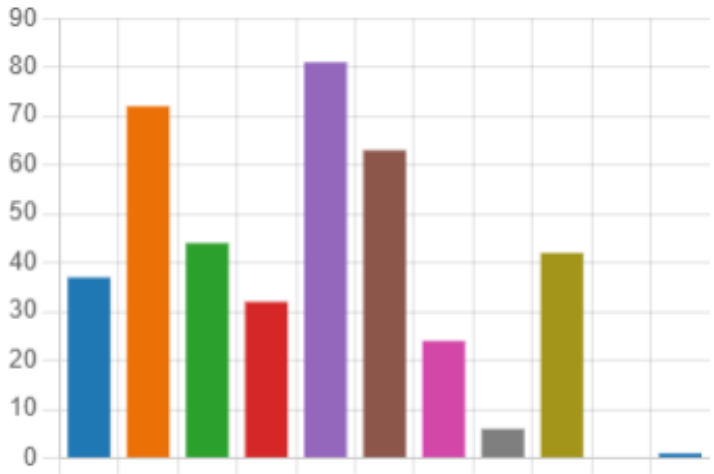
4. オープンキャンパスののことをどこで知りましたか。（複数回答可）

高校	56
インターネット	79
予備校	0
先輩	3
進学説明会	3
未記入	0
その他	1



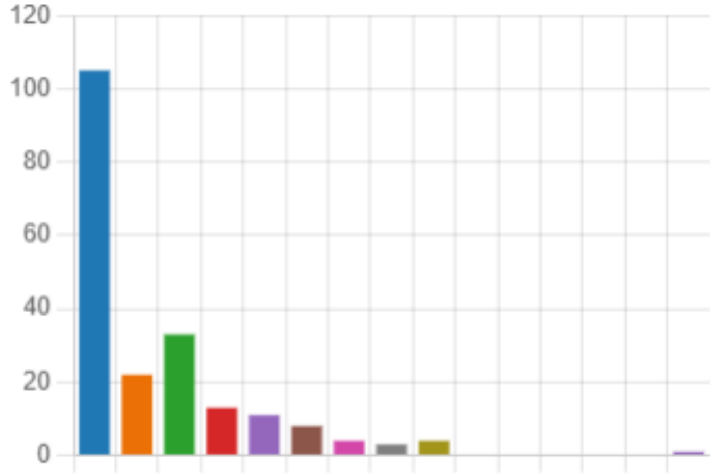
5. 今回のオープンキャンパスで知りたかった情報は何ですか？（複数選択可）

入試関連情報	37
教育内容（授業科目など）	72
卒業後の進路	44
取得できる資格	32
研究内容	81
設備・環境	63
部活・サークル	24
学生支援制度（学生寮・奨学金・...	6
入学後の学生生活	42
未記入	0
その他	1



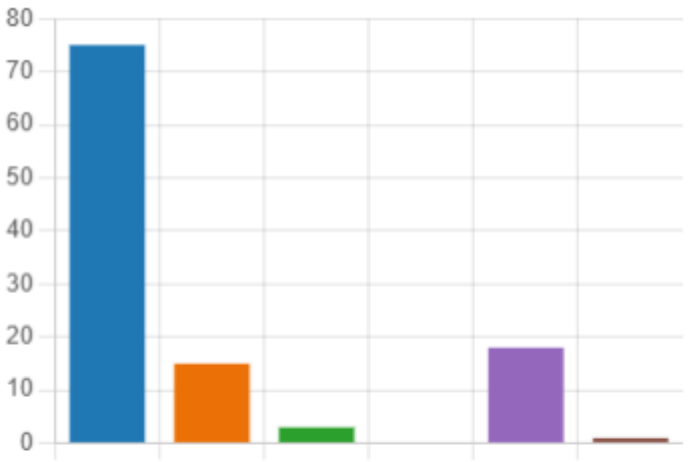
6. 今回のオープンキャンパスへ参加するときに参考にした情報は？（複数選択可）

大学ホームページ	105
高校の先生	22
大学パンフレット	33
家族・親戚	13
知人・先輩	11
大学ポスター	8
入試説明会	4
大学の先生の話（出前授業等）	3
予備校・塾	4
受験雑誌・受験会社	0
新聞広告	0
市電広告	0
LINE	0
未記入	0
その他	1



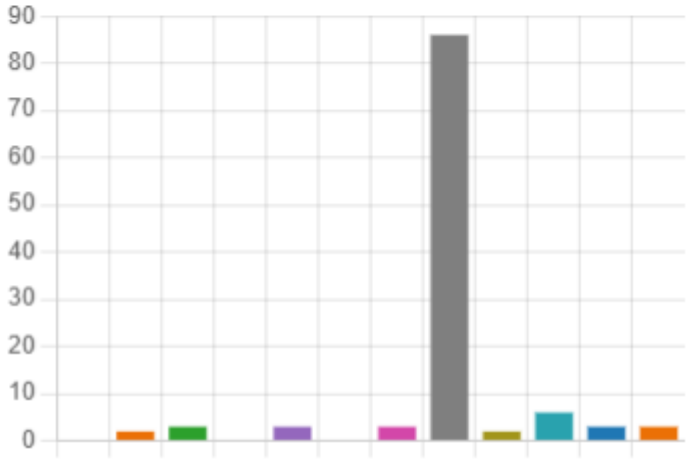
9. 現時点での鹿児島大学の志望順位は？

第1志望	75
第2志望	15
第3志望以下	3
志望しない	0
未定	18
未記入	1



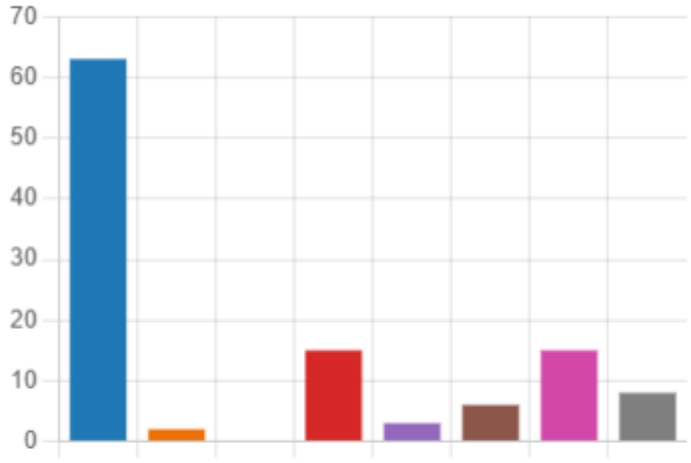
10. 鹿児島大学での志望学部は？（第1）

法文学部	0
教育学部	2
理学部	3
医学部医学科	0
医学部保健学科	3
歯学部	0
工学部	3
農学部	86
水産学部	2
共同獣医学部	6
未定	3
未記入	3



14. 一番関心のある入試区分は？

一般前期	63
一般後期	2
AO入試	0
推薦I（共通テスト無）	15
推薦II（共通テスト有）	3
自己推薦型	6
特になし	15
未記入	8



15. オープンキャンパスの満足度は？

とても満足した	86
まあ満足した	15
あまり満足出来なかった	1
全く満足出来なかった	0
未記入	10

2022年秋季オープンキャンパス実施状況

農　　学部

【参加者数】

高校生					その他（既卒者，教諭，保護者等）				区分不明者	合計
学年	県内者	県外者	不明	計	県内者	県外者	不明	計		
1年	1	0	0	1 人	10	11	0	21 人	0	49 人
2年	5	8	0	13 人						
3年	9	5	0	14 人						
合計	15 人	13 人	0 人	28 人						

【内訳】 ※行が不足の場合は，適宜追加してください。

（企画・コース名）	高校生				その他（既卒者，教諭，保護者等）				区分不明者	合計
	県内者	県外者	不明	計	県内者	県外者	不明	計		
学部企画： 学部説明会、キャンパスライフセミナー、個別相談会	15	13	0	28 人	10	11	0	21 人	0	49 人

2022年秋季オープンキャンパスに係る意見等

農　　学部

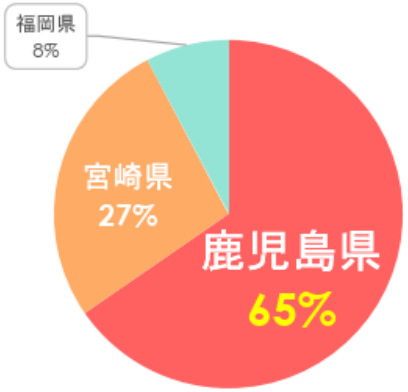
（参加者からの意見）…主な意見を抜粋してご記入ください。
・たくさんの学科のお話が聞けて良かったです。
・大変参考になる情報を得られました。
・それぞれの学科で扱うものが知れてよかったです。
・研究内容などを知ることができて良かったです。
・先輩方が、農学部について詳しく親身になって相談にのってくれました。
・先輩方が優しく、話やすかった。各学部について分かりやすかった。

（学部からの意見）…主な意見を抜粋してご記入ください。
今回のOCANs申込システムについて重複時間に申し込み可という設定になっていた為、対面の学部企画と全学企画の個別相談会において数名の2重申込者がおり、オープンキャンパス当日、対応に混乱が生じた。
これまでは重複時間に申込不可というシステム設定であった為、2重申込者に気が付かず、個別相談会の時間になっても受付に来なかったことから、学部企画の方に参加していることが分かった。
本人は、2重申込したものの学部企画も最後まで参加したいという気持ちになったとのことで、個別相談会の担当の先生と時間調整を行い対応した。
個別相談会の申込者枠は少なく、わりと早く満席になってしまったのでキャンセル待ちの時間帯枠も考えられることも含め、重複時間帯の申込不可という設定可能な方法（システム設定や企画設定の工夫など）を検討いただきたい。

２０２２年度　鹿児島大学農学部秋季オープンキャンパス
アンケート集計結果

（1－1）　どちらから来られましたか。

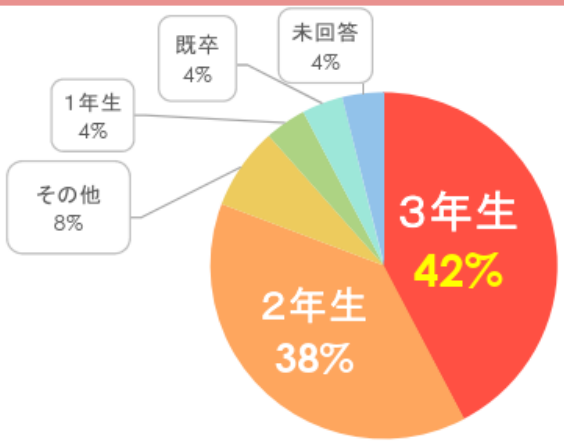
鹿児島県	17
宮崎県	7
福岡県	2



（1－2）　学年

選択肢	回答数
１年生	1
２年生	10
３年生	11
既卒	1
その他	2
未回答	1

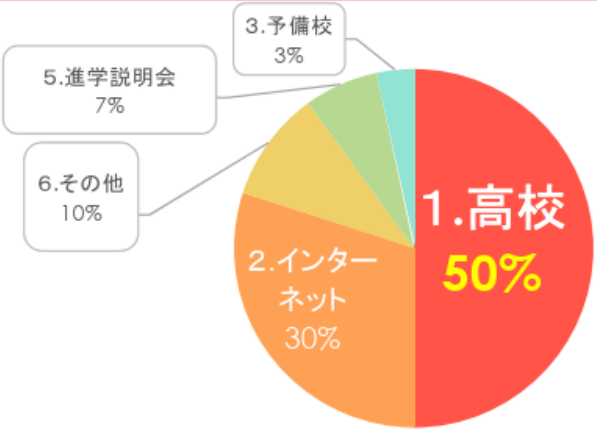
その他　内訳
・教諭



（2）　オープンキャンパスのことをどこで知りましたか。（複数回答可）

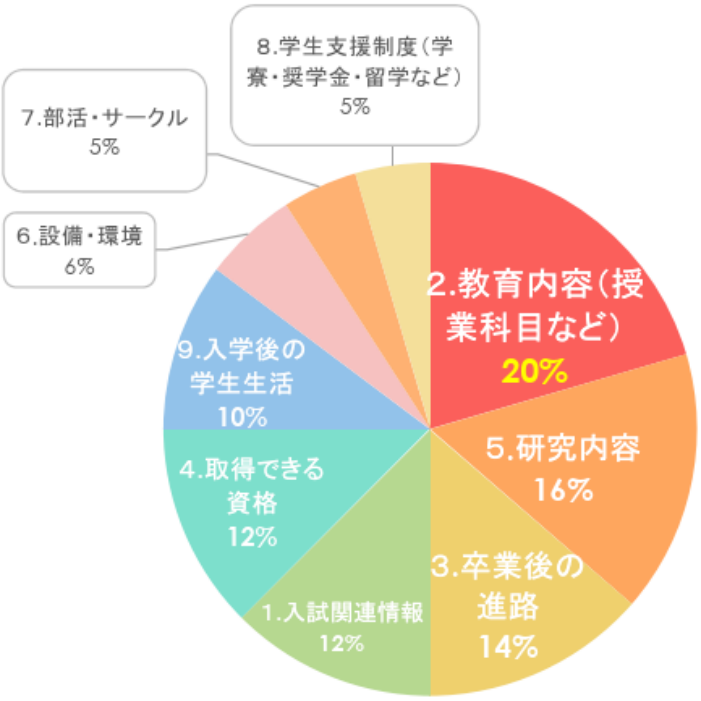
選択肢	回答数
１.高校	15
２.インターネット	9
３.予備校	1
４.先輩	0
５.進学説明会	2
６.その他	3

６.その他　内訳
・家族
・母親
・チラシ



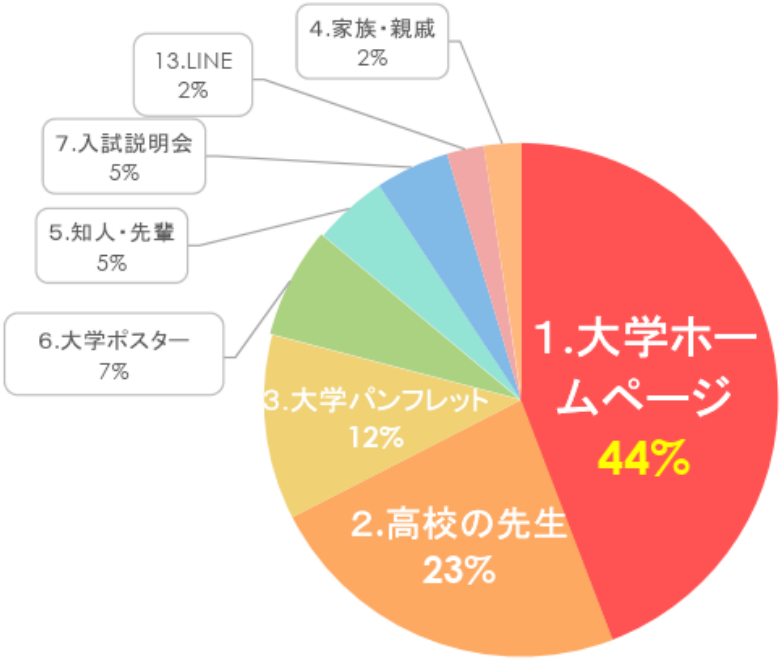
（3） 今回のオープンキャンパスで知りたかった情報は何ですか？（複数選択可）

選択肢	回答数
1.入試関連情報	11
2.教育内容（授業科目など）	18
3.卒業後の進路	12
4.取得できる資格	11
5.研究内容	14
6.設備・環境	5
7.部活・サークル	4
8.学生支援制度（学寮・奨学金・留学など）	4
9.入学後の学生生活	9
10.その他	0



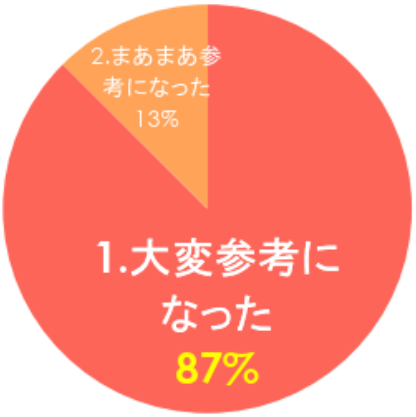
（4） 今回のオープンキャンパスへ参加するときに参考にした情報は？（複数選択可）

選択肢	回答数
1.大学ホームページ	19
2.高校の先生	10
3.大学パンフレット	5
4.家族・親戚	1
5.知人・先輩	2
6.大学ポスター	3
7.入試説明会	2
8.大学の先生の話（出前授業等）	0
9.予備校・塾	0
10.受験雑誌・受験会社	0
11.新聞広告	0
12.市電広告	0
13.LINE	1
14.その他	0



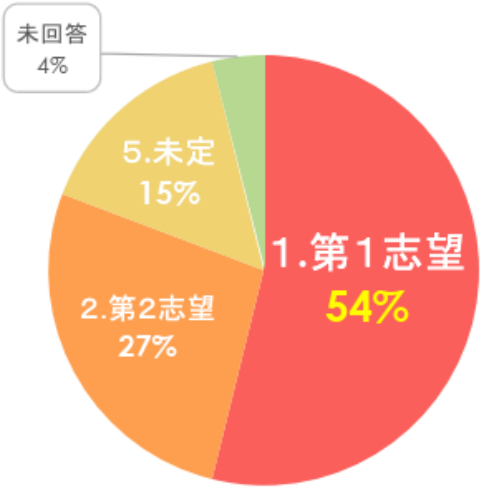
（5） 進路を決める参考となりましたか。

選択肢	回答数
1.大変参考になった	21
2.まあまあ参考になった	3
3.あまり参考にならなかった	0



（6） 現時点での鹿児島大学の志望順位は？

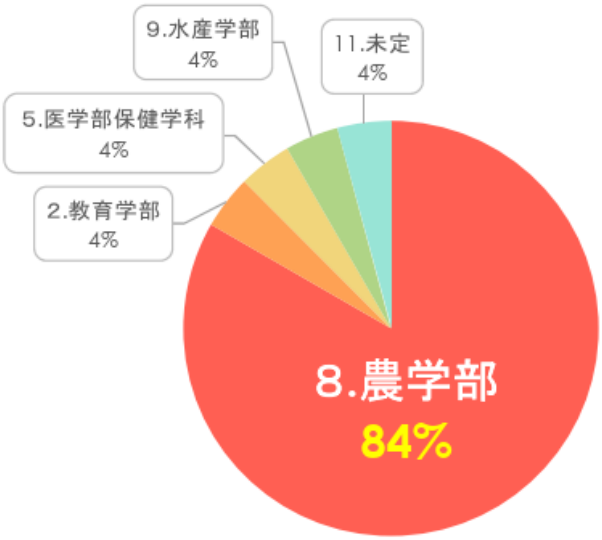
1.第1志望	14
2.第2志望	7
3.第3志望以下	0
4.志望しない	0
5.未定	4
未回答	1



（7） 鹿児島大学での志望学部は？

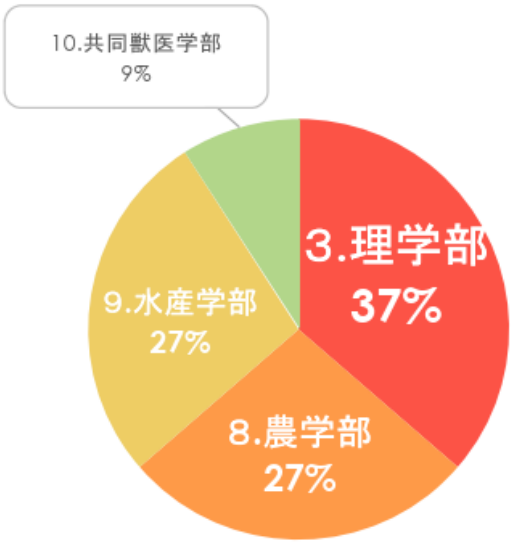
第１志望

選択肢	回答数
1.法文学部	0
2.教育学部	1
3.理学部	0
4.医学部医学科	0
5.医学部保健学科	1
6.歯学部	0
7.工学部	0
8.農学部	20
9.水産学部	1
10.共同獣医学部	0
11.未定	1
12.その他	0



第２志望

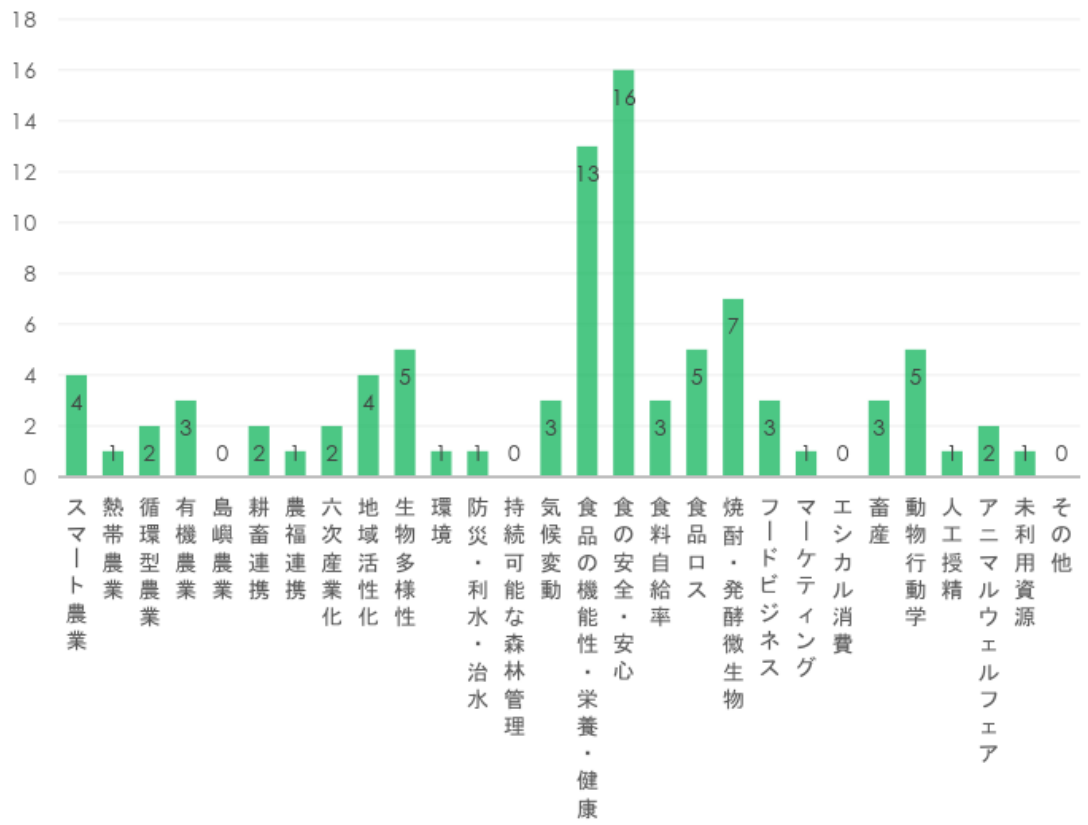
選択肢	回答数
1.法文学部	0
2.教育学部	0
3.理学部	4
4.医学部医学科	0
5.医学部保健学科	0
6.歯学部	0
7.工学部	0
8.農学部	3
9.水産学部	3
10.共同獣医学部	1
11.未定	0
12.その他	0



第３志望

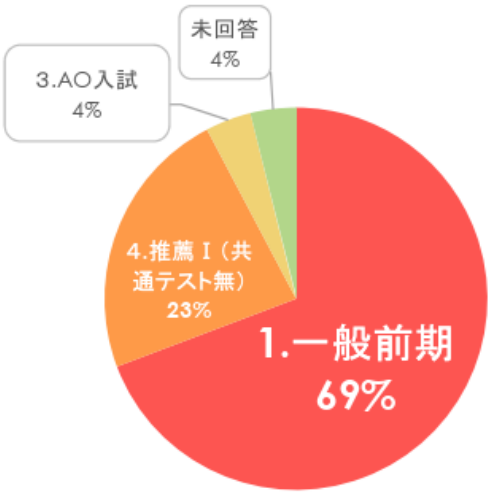
選択肢	回答数
1.法文学部	0
2.教育学部	0
3.理学部	0
4.医学部医学科	0
5.医学部保健学科	0
6.歯学部	0
7.工学部	0
8.農学部	0
9.水産学部	1
10.共同獣医学部	0
11.未定	0
12.その他	0

（8） もし農学部に入学した場合、どのような勉強や研究ができることを期待しますか。（複数回答可）



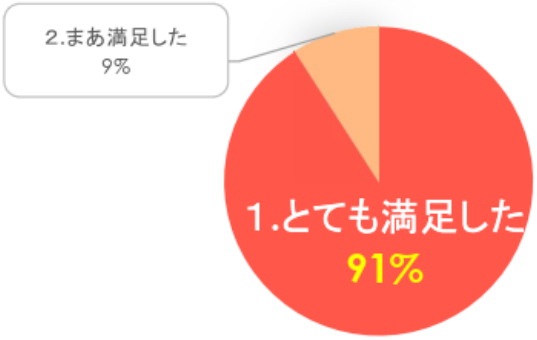
（9） 一番関心のある入試区分は？

選択肢	回答数
1.一般前期	18
2.一般後期	0
3.AO入試	1
4.推薦Ⅰ（共通テスト無）	6
5.推薦Ⅱ（共通テスト有）	0
6.自己推薦型	0
7.特になし	0
未回答	1

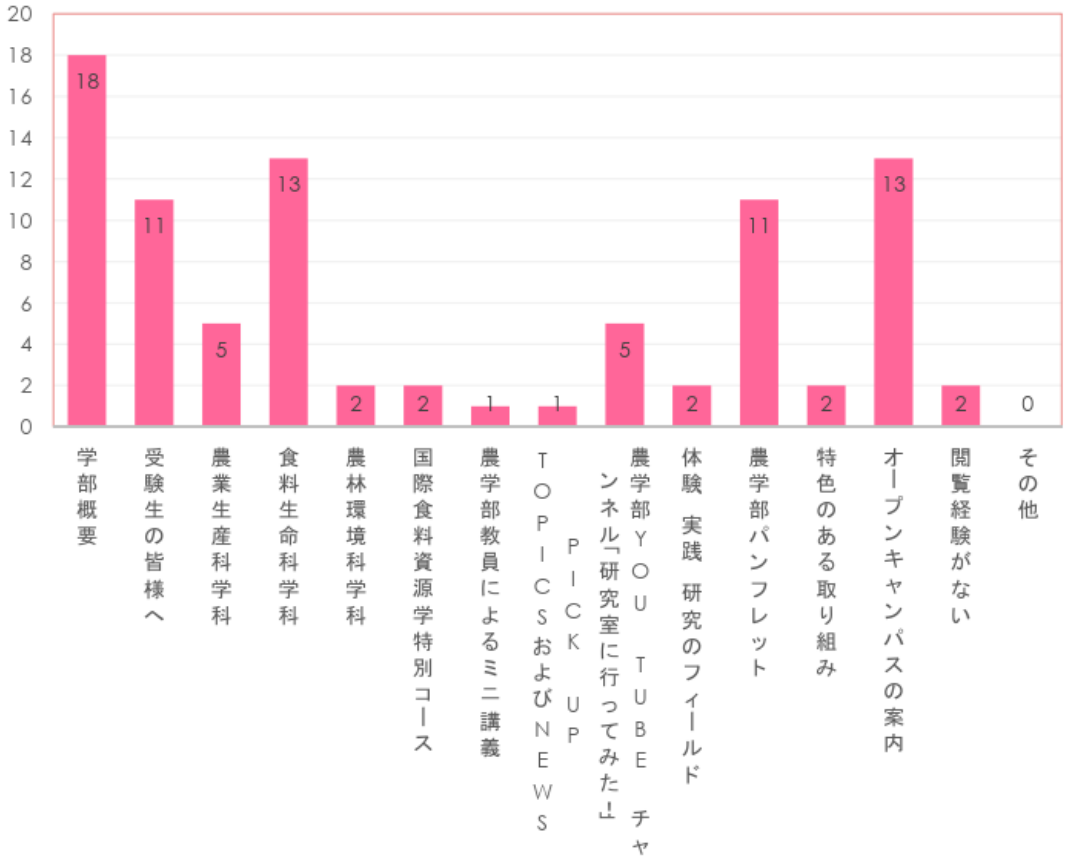


（10） オープンキャンパスの満足度は？

1.とても満足した	20
2.まあ満足した	2
3.あまり満足出来なかった	0
4.全く満足出来なかった	0
未回答	0



（11） 閲覧したことがある鹿児島大学農学部ホームページのサイトを以下から選んでください。(複数回答可)



参加者からの主な感想

・たくさんの学科のお話が聞けて良かったです。
・大変参考になる情報を得られました。
・それぞれの学科で扱うものが知れてよかったです。
・研究内容などを知ることができて良かったです。
・先輩方が、農学部について詳しく親身になって相談にのってくれました。
・先輩方が優しく、話やすかった。各学部について分かりやすかった。

資料４．農学部改組への協力要請書

令和４年 11 月７日

関係機関及び部局の長　殿

鹿児島大学長
佐　野　　輝

農学部改組への協力要請について（お願い）

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より本学の農学教育研究活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の農林食品業は、取り巻く国内外の社会情勢の大きな変化に伴って、環境保全、森林管理、防災、新たな食品の開発や安心安全への取組、グローバル経済、自給率低下、地域活性化、後継者不足などの深刻な課題を数多く抱えており、このような現代において、農学部関連分野においては、確かな知識と先鋭的視点、新技術を駆使して課題を解決できる人材の育成が強く求められています。

本学農学部は、保有する農場や演習林といった広大なフィールドのみならず、亜熱帯島嶼域、農村地域コミュニティ、食品産業といった極めて幅広い学問領域を対象としてきましたが、俯瞰的視野で農林食産業を捉えつつ、高度な専門知識や技術を以て様々な課題を考究し解決する教育研究体制への変革が必要と考え、そのために、我が国の南日本の農学教育研究拠点である本学では、農学部の改組を検討しております。具体的には、現状の農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科の３学科９コース制を「植物資源科学プログラム、環境共生科学プログラム、食品生命科学プログラム、農食産業・地域マネジメントプログラムの１学科４プログラム制」として令和６年４月に組織改編を検討しており、植物や環境、食品分野における教育・研究を重点化し、経営的視点を持った農学教育のさらなる充実を図ることを構想しております。本改組により、将来の目標を見据えたキャリア教育の充実、分野横断的に学修しやすい体制の整備、更なるフィールド学習の充実によって、農学全体を俯瞰的に見渡すことができる総合的な力と先端先進的な知識・技術の涵養を両立する人材を輩出し、地域のみならず、我が国の農学分野の将来の発展に貢献する所存です。

つきましては、本学における学部改組による農学教育の改革に関しまして、関係機関からのご賛同ならびにご要請をいただけましたら幸いです。

よろしくお願い申し上げます。

敬具